

令和2年度 学校教育努力点

1 主題

目を輝かせて学ぶ鳥羽見っ子の育成

2 主題設定の理由

(1) 子どもの実態と目指す子どもの姿

子どもによる主体性を問うアンケートを行うと、およそ9割が前向きな回答だった。問題解決型学習が子どもに馴染み、主体的な子どもが増えてきた結果だと言える。しかし、教職員による子どもの実態調査では、依然として主体性が乏しいという結果だった。また、教職員へのアンケートからも「自分の思いを前面に出して自ら行動してほしい」という主体性を求める意見が多かった。子ども自身によるアンケート調査から主体性を図ってきたが、子どもの姿に主体性を感じられないことは、やはり課題として改善を図る必要があるだろう。そこで、主体的な学びを再度捉え直し、明確なイメージを描きながら「目を輝かせて学ぶ鳥羽見っ子」の姿を追究したい。

主体的な学びとは（改訂のポイントより）

学ぶことに興味や関心をもち（導入）、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み（展開）、自己の学習活動を振り返って次につなげる（まとめ・振り返り）「主体的な学び」が実現できているか。

目指す子どもの姿「目を輝かせて学ぶ鳥羽見っ子」

- 導入部の姿・・・興味や関心をもって学ぼうとする姿
- 展開部の姿・・・見通しをもって粘り強く取り組む姿
- 終末部の姿・・・自分の学びをさらに生かしていこうとする姿

(2) これまでの研究から

昨年度まで「目を輝かせて学ぶ鳥羽見っ子ーアクティブ・ラーニングの視点を重視した授業づくりー」を主題に、主体性を育む研究に取り組んできた。問題解決学習の導入・展開・まとめの場面に手だてをうたなければならないという教師の意識が、授業の自由度を下げ、授業の盛り上がりを緩やかにしてしまったように思う。これは、中央教育審議会（答申）に下のように危惧されていたことと一致している。

- ・ 特定の教育方法にこだわるあまり指導の型をなぞるだけで意味のある学びにつながらない。
- ・ 指導法を一定の型にはめ、狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始するのではないか。
- ・ 本来の目的を見失い、特定の学習や指導の「型」に拘泥する事態を招きかねない

つまり、「本来の目的を見失わないこと」と「特定の教育方法や指導の『型』にこだわらないこと」に注意しながら、さらに創意工夫に基づく授業を行うことが求められている。

(3) 主題設定の理由

これまでの授業改善の視点を土台にしながらも、主体的に学ぶ子どもの姿を具体的に思い描くことで、目的をはっきりさせて授業を行っていく。その上で、子どもに考えさせたい場面で十分に時間を確保したり、子どもの発想に合わせて授業を構成したりするなど、子どもの活動の幅を広げる創意工夫を行っていく。このように研究を進めることにより、主体性が子どもの姿に表れることになれば「鳥羽見っ子は主体的な子が多いね、鳥羽見小学校は活力があふれている」と教師や保護者が子どもの変化を実感することができるだろう。以上のように学校教育努力目標を掲げた研究は、学校教育目標である「活力ある子」の姿を追究することにもつながるだろう。

3 研究の手だて

(1) 授業の山場を意識した授業

子どもに考えさせたい場面で十分に時間を確保したり、子どもの発想に合わせて授業を構成したりするなど、授業の山場を意識した教材・教具の工夫を行ったり、発問の工夫をしたりする。

(2) 目指す子どもの姿を明確にする

子どもがどのような姿を見せたら主体性が育まれたと言えるのかを具体化したチェックシートを作成する。チェックシートを活用し、子どもの変容を測る。チェックシートは、授業に合わせて変更してもよい。このチェックシートと指導案を基に事前検討会・授業実践・事後検討会を行う。

- 1 特定の「型」にこだわらないために、授業の山場を意識する。
- 2 目標を明確にするために、子どもの姿を思い描いたチェックシートを活用する。

4 研究の方法

(1) 授業実践

担任全員が年間1回の授業実践を行い、指導案を用意して低・中・高学年部会ごとに授業を参観し合う。ひまわり学級は、子どもの実態に合わせて実践に取り組み、研究主題に迫るようにする。

(2) 評価

- ① 子どもの様子・授業実践後の感想等から実践の効果を測る。
- ② 部会授業前後は、各部会でチェックシートと指導案をもとに検討会を行い、授業の山場と目指す子どもの姿を中心に検討を行う。

(3) 保護者との連携

- ① 学級懇談会、学校だより等の機会を通じて、研究の様子を伝える。

5 研究の組織

(1) 推進委員会

校長、教頭、教務、校務、推進委員長、各学年の推進委員で組織する。全体計画の検討、作成、実践研究の推進、研究報告などに当たっての部会間の情報交換および調整の場とする。

(2) 全体会

全職員で構成し、年度当初に全体計画の検討・決定を行う。年度末に最終のまとめを行い、共通理解の場とする。

(3) 学年部会

具体的な研究実践を進める母体とする。授業研究や活動計画、継続指導、実態調査などを検討したり、公開授業計画等を話し合ったりする場とする。推進委員が司会を務め、会を進める。ひまわり学級は、子どもの実態に応じて、低学年部会に所属する。

<組織図>

